

5月 ほけんだより

令和3年4月30日
台東区立金竜小学校
校長 古谷尚律
養護教諭 田井萌子

～定期健康診断が始まりました～

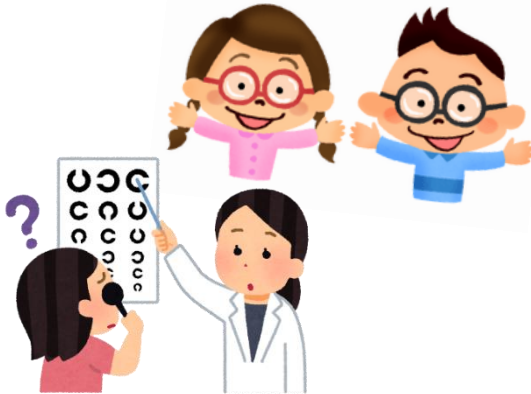
「ほけんだより 4月号」でお知らせしたとおり、定期健康診断が始まっています。健診後、受診が必要な場合は検査結果をお渡ししています。診断内容によっては、再度受診をしていただかないと、夏季水泳指導や、宿泊行事に参加できなくなってしまう場合もありますので、受診していただくようご御協力お願いいたします。

また、健診当日欠席してしまい振替の健診も受けられなかったお子さんにも、受診のお知らせをお渡ししておりますので、各御家庭で受診をお願いいたします。

すべての健診が終わりましたら「健康の記録」をお返しします。健診結果が記入されていますので、御確認のうえ、押印をして学校へお戻してください。



視力検査について



学校で行う視力検査は、あくまでスクリーニングとして行っています。台東区内の小学生は東京都の平均と比べても視力が低い傾向にあるという実態や、昨年度の自粛期間明けに視力が低下した児童が増加した実態から左右の眼、どちらか片方でも1.0未満（B以下）であると判断されるお子さんに関して、受診勧告書「視力検査結果のお知らせ」を配布しております。

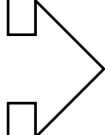
お時間のあるときに、受診をしていただくよう、御協力お願いいたします。（眼鏡を使用しているお子さんや、かかりつけ医に受診中のお子さんも同様です。次回受診の際に主治医の先生に御相談ください。）

めがねの役割 やくわり

目から入った情報が脳に伝わると「見る」ことができますが、黒板の文字などがぼやけて見えていたら、脳にもぼやけた情報しか入ってこないため、内容が正しく覚えられません。めがねをかけてきちんと「見る」ようにしましょう。



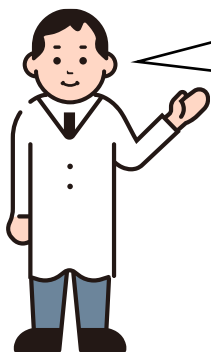
裏面に校医の先生からの情報が載っています。



うわばきのサイズ、あっていますか？

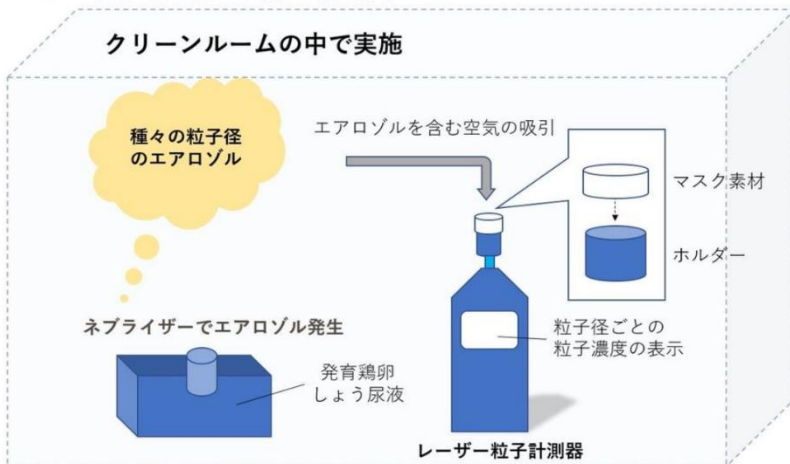


新年度が始まるにあたって、うわばきを新しくしてくださった御家庭も多いと思います。しかし子どもたちの履き替えを見ているとサイズが大きすぎたり、小さくなってかかとを踏んでいる様子が見られました。サイズの合わない靴は、けがの原因となったり、緊急時の避難の際に危険です。今一度、御家庭でサイズの確認をお願いします。



マスクをするのは、自分がかからないようにするためだけではなく、周りの人に移さないためでもあります。

■エアロゾル粒子通過阻止実験 模式図



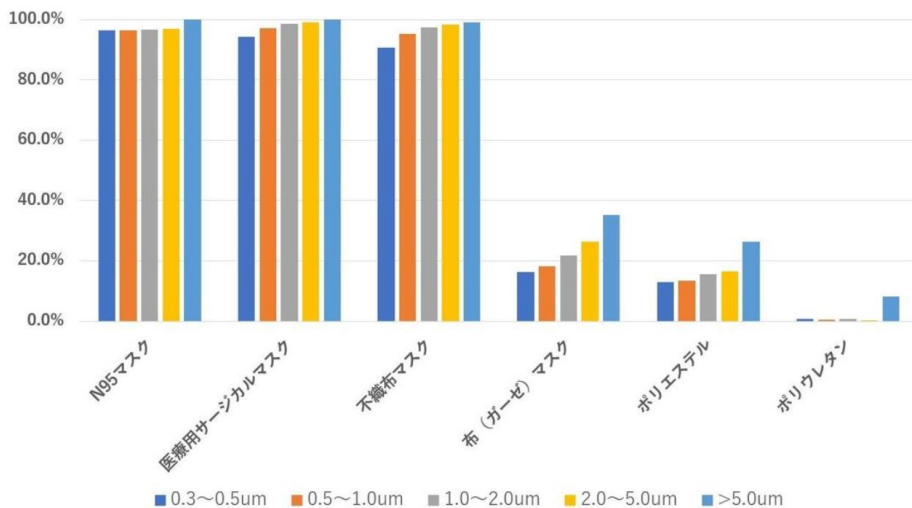
マスク素材で「飛沫防止効果」はこんなに違う!!

「富岳」にて行われた飛沫防止効果はコンピューターによるシミュレーションでしたが、今回は実際に実験を行っています。

(図) 西村秀一医師より提供

クリーンルームの中で、喘息などの治療薬吸入器具として使われているネブライザーからヒトの出すエアロゾルを模したものを発生させて、それをそれぞれのマスク素材がどれくらい通すか実際に試した結果です。

■マスク素材別の粒子除去性能



着け心地がよく、呼吸もしやすいウレタン製マスクは 5.0 μm 以下の粒子だと除去率 1%以下という結果でした。不織布や布マスクと比べて感染のリスクが上がります。

新たに発見された変異株は小児にも強い感染力があると言われています。ご使用中のマスクについてご家庭でご検討ください。

	0.3~0.5um	0.5~1.0um	1.0~2.0um	2.0~5.0um	>5.0um
N95マスク	96.4%	96.5%	96.7%	96.9%	100.0%
医療用サージカルマスク	94.3%	97.2%	98.5%	99.2%	100.0%
不織布マスク	90.8%	95.2%	97.5%	98.4%	99.1%
布(ガーゼ)マスク	16.4%	18.3%	21.8%	26.5%	35.3%
ポリエステルマスク	13.0%	13.5%	15.7%	16.6%	26.3%
ポリウレタンマスク	0.9%	0.5%	0.6%	0.0%	8.2%

注) 各マスク1枚につき3箇所を切り取り調査し、それぞれマスクを2回計測した平均値

(図) 西村秀一医師の実験結果より